

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

| | | | | | |
|------|---|----|------|----|---|
| 学校番号 | 8 | 山田 | 高等学校 | 課程 | 定 |
|------|---|----|------|----|---|

| | | | |
|-------------|---|--|---|
| 高知県の教育の基本理念 | (1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人 | スクール・ミッション | 様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。 県中部の定時制高校として、様々なニーズのある生徒を支援し、きめ細かな学習活動や探究活動、キャリア教育の充実を図ることで社会性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する。 |
| スクール・ポリシー | 【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○ 学習したいという意思が強く、将来の夢や目標に向かってチャレンジする意欲をもっている生徒。 ○ 学校行事や学校生活などに積極的に取り組もうとする生徒。 ○ ルールやマナーを守り、他人の立場を理解し行動できる生徒。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ 基礎的な学力を養います。 ○ 規範意識とコミュニケーション能力を育てます。 ○ 健康な心身を育てます。 ○ 郷土を愛する気持ちを培います。 | 【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○ 基礎から学べるカリキュラムを編成しています。 ○ 定通併修制度等による三修制(3年間で卒業するコース)を選択できます。 ○ 商業科目を配置し、実社会に役立つ各種検定取得を目指し取り組んでいます。 | |

| | |
|-------------------|--|
| 学校関係者評価 | |
| 【学力の向上】 評価 【 A 】 | 基礎学力の定着・学習習慣がついておらず、特別な支援が必要な生徒等が多い現状で、学年を追うごとに学習意欲が少しずつ表れていることはよいことであるし、多様な生徒たちに対して、それぞれに合った継続的な学習支援ができています。 |
| 【社会性の育成】 評価 【 A 】 | 在籍している生徒たちの状況を鑑み、生徒たちへの負担を考慮した教育活動を通して、社会性を身に付けさせている。学校側が奨励したいアルバイトについて、生徒たちが自分からやりたいと思える日までじっくり待ってあげており、主体性の育成へとつなげている。 |
| 【チーム学校】 評価 【 A 】 | 多様な背景を抱えた生徒に対して、授業や学校生活において教職員と関係機関が情報共有し、支援を行っている。日頃からコミュニケーションをしっかりと図るとともに、特別支援教育や不祥事防止の研修も実施し、チームとして生徒たちに対応している。 |

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

| 重点項目 | 育成を目指す資質・能力【P】 | 現状と目標(評価指標) | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】 | 見直しのポイント【A】 |
|------|--|---|--|---|--|---|---|
| | | | | | | | |
| 重点項目 | ★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) | ○成績優秀者A評価(平均評定4.3以上)数の増加 ・全校生徒22%以上にする。(R6:21.4%) ○授業外学習時間の増加 ・県オリジナルアンケート「授業以外で、平日の1日1時間以上勉強している」肯定的回答10%以上。(R6:8.5%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「自主学習は必要だと思う」肯定的回答80%以上。(R6:81%) ・各種検定等の合格者の割合を50%以上。(R6:商業87.5%、国語0%) | ・タブレット等、ICTを活用した授業の実施 ・課題テストの分析による学力把握と対策 ・小テストや反復練習によるスモールステップの学習の実施 ・多様な学力をもつ生徒への教務・進路補習の実施 ・各種検定取得に向けての指導 | B ○成績優秀者A評価(平均評定4.3以上)数の増加 ・全校生徒22%以上⇒6名(21%) ○授業外学習時間の増加 ・県オリジナルアンケート「授業以外で、平日の1日1時間以上勉強している」肯定的回答10%以上⇒12.8%(第1回) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「自主学習は必要だと思う」肯定的回答80%以上⇒91.4%(第1回) ・各種検定等の合格者の割合を50%以上⇒商業100%、国語33%) | ・タブレット等、ICTを活用した授業の充実 ・課題テスト(9月)実施による学力把握と対策 ・学習支援員の配置 ・各教科課題を課す ・2・3学期の教務・進路補習の実施 ・各種検定取得に向けての個別指導 | A ○成績優秀者A評価(平均評定4.3以上)数の増加 ・全校生徒22%以上⇒6名(21%)【学年末】【未達成】 ○授業外学習時間の増加 ・県オリジナルアンケート「授業以外で、平日の1日1時間以上勉強している」肯定的回答10%以上⇒17.3%(第2回)【達成】 ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県オリジナルアンケート「自主学習は必要だと思う」肯定的回答80%以上⇒81.7%(第2回)【達成】 ・各種検定等の合格者の割合を50%以上⇒商業50%、国語66.7%【達成】 | ・多くの生徒が家庭学習習慣が身につけていないため、家庭学習を促す施策を全教科で検討する。 ・ユニバーサルデザインの授業づくり。 ・商業科目を主として、初級程度から資格取得に取り組む。 |
| | ★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む) ○社会性を伸ばさせる | ・出席率(授業日数)60%以上。(R6:84.8%) ・県オリジナルアンケート「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」肯定的回答80%以上。(R6:86.7%) ・年に1回以上ボランティア活動に参加。(R6:70.3%) ・学校行事への出席率50%以上。(R6:74.2%) | ・「生活体験発表会」への取り組み ・キャリアノートの活用 ・各種講演会等の実施 ・外部機関との連携 ・ボランティア・地域貢献活動を推進 | A ・出席率(授業日数)60%以上⇒87.7% ・県オリジナルアンケート「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」肯定的回答80%以上⇒95.8%(第1回) ・年に1回以上ボランティア活動に参加⇒82.1% ・学校行事への出席率50%以上⇒86.1% | ・LH等を通して自己理解や他者理解を深め、コミュニケーション能力を育成する ・各種講演会等のキャリア教育の充実 ・外部機関との連携 ・ボランティア・地域貢献活動を推進 | A ・出席率(授業日数)60%以上⇒88.5%【学年末】 ・県オリジナルアンケート「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」肯定的回答80%以上⇒87.7%(第2回)【達成】 ・年に1回以上ボランティア活動に参加⇒82.1%【達成】 ・学校行事への出席率50%以上⇒81.9%【達成】 | 学校行事の更なる充実を図る。 |
| 取組項目 | 【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携 | ・県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするため実際に行動している」肯定的回答35%以上。(R6:37.7%) | ・地域貢献活動やボランティア活動への参加機会を多くつくる ・「総合的な探究の時間」の探究テーマに地域課題を設定する | C ・県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするため実際に行動している」肯定的回答35%以上⇒18.5%(第1回) | ・学校行事を活用して、地域貢献活動やボランティア活動を行う ・総合的な探究の中で、身近な事柄から地域課題について考えることができるよう促す | B ・県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするため実際に行動している」肯定的回答35%以上⇒35.0%(第2回)【達成】 | 地域と連携をした取組の増加にチャレンジする。 |
| | 【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成 | ・各教科において言語活動や情報活用能力の育成を意識した授業を学期に2回以上設定。(R6:2回) ・「総合的な探究の時間」において、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けた探究活動をしている割合を50%以上。(R6:34.5%) | ・教員間の相互授業参観の充実 ・教科研究会等への参加 ・総合的な探究の時間担当教員間の情報共有 ・各教科の授業や「総合的な探究の時間」の中で、SDGsに関する簡単な内容に触れる機会を設定 | C ・各教科において言語活動や情報活用能力の育成を意識した授業を学期に2回以上設定⇒取組中 ・「総合的な探究の時間」において、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けた探究活動をしている割合を50%以上⇒取組中 | ・教員間の相互授業参観の充実 ・教科研究会等の研修内容の共有 ・総合的な探究の時間担当教員間の情報共有 ・各教科の授業や「総合的な探究の時間」で設定した地域課題をSDGsに当てはめて考え、探究学習へつなげる | B ・各教科において言語活動や情報活用能力の育成を意識した授業を学期に2回以上設定⇒各教科によってばらつきがあるが85.7%が可能な範囲で実施【達成】 ・「総合的な探究の時間」において、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けた探究活動をしている割合を50%以上⇒42.9% 総合的な探究の時間では、進路に係る探究活動が主となり精一杯の取組であり、教科に結び付けた課題探究までいかないのが現実である【未達成】 | 総合的な探究の時間のブラッシュアップを図る。 |

| 重点項目 | 取組のねらい【P】 | 現状と目標(評価指標) | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】 | 見直しのポイント【A】 |
|-------|---|--|--|---|---|---|-------------------------------------|
| | | | | | | | |
| チーム学校 | ★学校の魅力化・特色化 ○多様な生徒への支援体制の充実(教育相談体制の充実) ○地域との連携 | ○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・中途退学者を10%以内。(R6:10.7%) ・学校HPを月1回以上更新する。(R6:25回投稿) ・学校運営協議会等の実施回数年2回以上。(R6:2回) | ・教育振興会における情報発信 ・中高連絡会での情報発信 ・地元中学校や関係機関との連携強化 ・保護者及び地域の方の授業参観の促進 | B ・中途退学者を10%以内⇒0名 ・学校HPを月1回以上更新する⇒実行できていない ・学校運営協議会等の実施回数年2回以上⇒1回目実施済み(8/4) | ・教育振興会における情報発信 ・地元中学校や関係機関との連携強化(オープンスクールの実施 11/17~11/28) ・保護者及び地域の方の授業参観の促進(公開授業の実施) | B ・中途退学者を10%以内⇒0名(3/12現在)【達成】 ・学校HPを月1回以上更新する⇒0回:実行できていない【未達成】 ・オープンスクールの実施⇒7名参加。 ・学校運営協議会等の実施回数年2回以上⇒1回目実施済み(8/4)、2回目実施予定(3/12)【達成】 | ・SC・SSWの時間数の増加。 ・地域と連携した取り組みの実施。 |
| | ★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応 | ○倫理観堅持のための具体的目標(指標) ・不祥事発生件数0件。(R6:0件) ○不祥事防止委員会の実施回数:年3回以上。(R6:3回) ・不祥事防止研修年3回以上。(R6:3回) | ・挨拶の励行 ・不祥事防止に関する情報の共有 ・面談時での状況把握と積極的声掛け ・月1回は、校長・副校長に連絡会へ出席し訓示 | A ・不注意事案発生件数0件⇒0件 ・不祥事防止委員会の実施回数:年3回以上⇒職員会後等に開催(4/2、7/2、9/3) ・不祥事防止研修年3回以上⇒3回実施(4/1、8/8、9/3) | ・挨拶の励行 ・職員間でコミュニケーションを図る ・不祥事防止研修の実施 ・不祥事の事例等の情報の共有 ・面談時での状況把握と積極的声掛け | A ・不注意事案発生件数0件⇒0件【達成】 ・不祥事防止委員会の実施回数:年3回以上⇒職員会後等に開催(4/2、7/2、9/3)【達成】 ・不祥事防止研修年3回以上⇒3回実施(4/1、8/8、9/3)【達成】 ・連絡会の際にラジオ体操を導入し、心身ともに健康を保つとともに、相互にコミュニケーションの充実を図った。 | ・連絡会等の活用。 ・研修会の充実。 |
| | ★長時間勤務の解消 ○業務の効率化を図る ○風通しのよい職場環境づくりをする | ・時間外の長時間労働の教員を0名。(1ヵ月45時間、年間360時間を厳守。)(R6:1名) ・職員室でのコミュニケーションの充実 | ・業務分担を適切に行う ・学校行事の精選や業務の適正化 ・ICTの活用による業務削減 ・連絡会や職員会等で情報共有 ・職員同士での互いに声かけやフォロー | A ・時間外の長時間労働の教員を0名⇒0名 ・職員室でのコミュニケーションの充実⇒継続中 | ・職員室でのコミュニケーションの充実、情報共有 ・ICTの活用による業務削減 ・連絡会や職員会等で情報共有 ・職員同士での声かけやフォロー ・学校行事の精選や業務の適正化 | A ・時間外の長時間労働の教員を0名⇒0名【達成】 ・職員室でのコミュニケーションの充実⇒継続中 | ・業務の整理と見直し。 |